

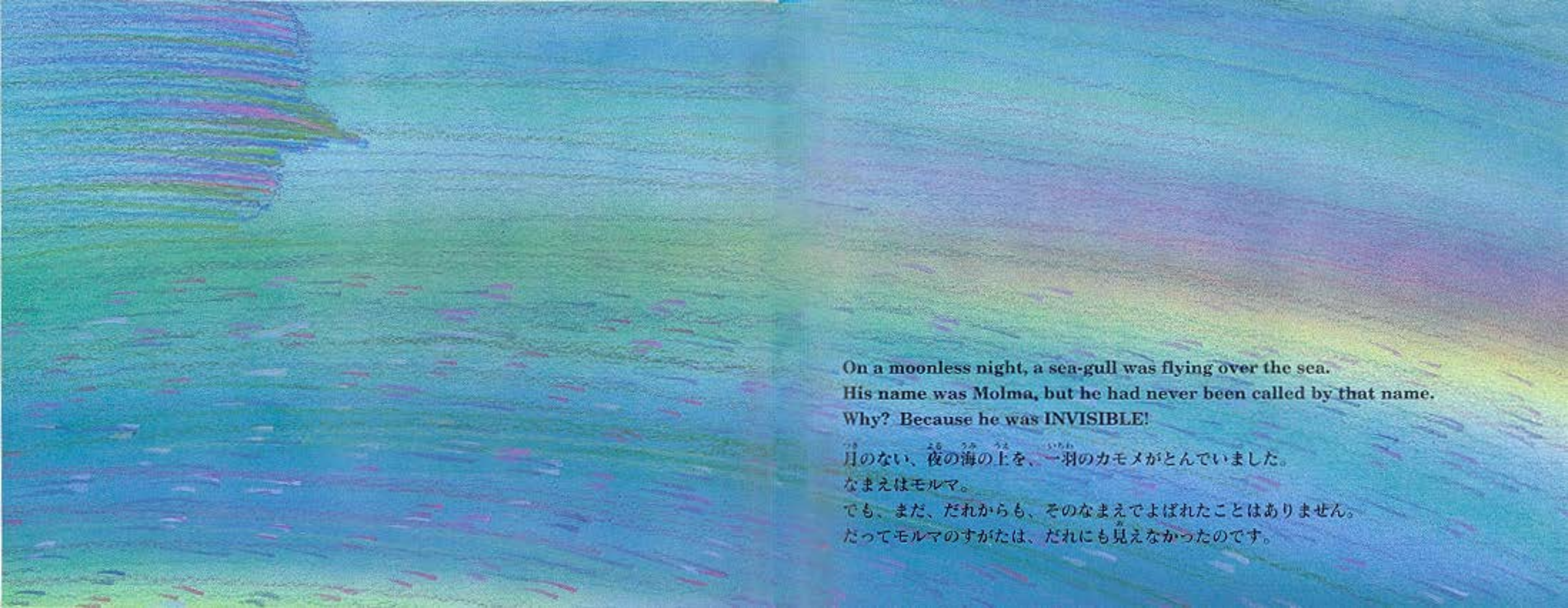
MOLMA

夕日のモルマ



Original Japanese Story by SHUNPEI TSUTSUMI
English Translation by TADAAKI MIYAKE
Illustration by TAKESHI KURACHI


つつみ しゅんぺい：ぶん
みやけ ただあき：やく
くらち たけし：え



**On a moonless night, a sea-gull was flying over the sea.
His name was Molma, but he had never been called by that name.
Why? Because he was INVISIBLE!**

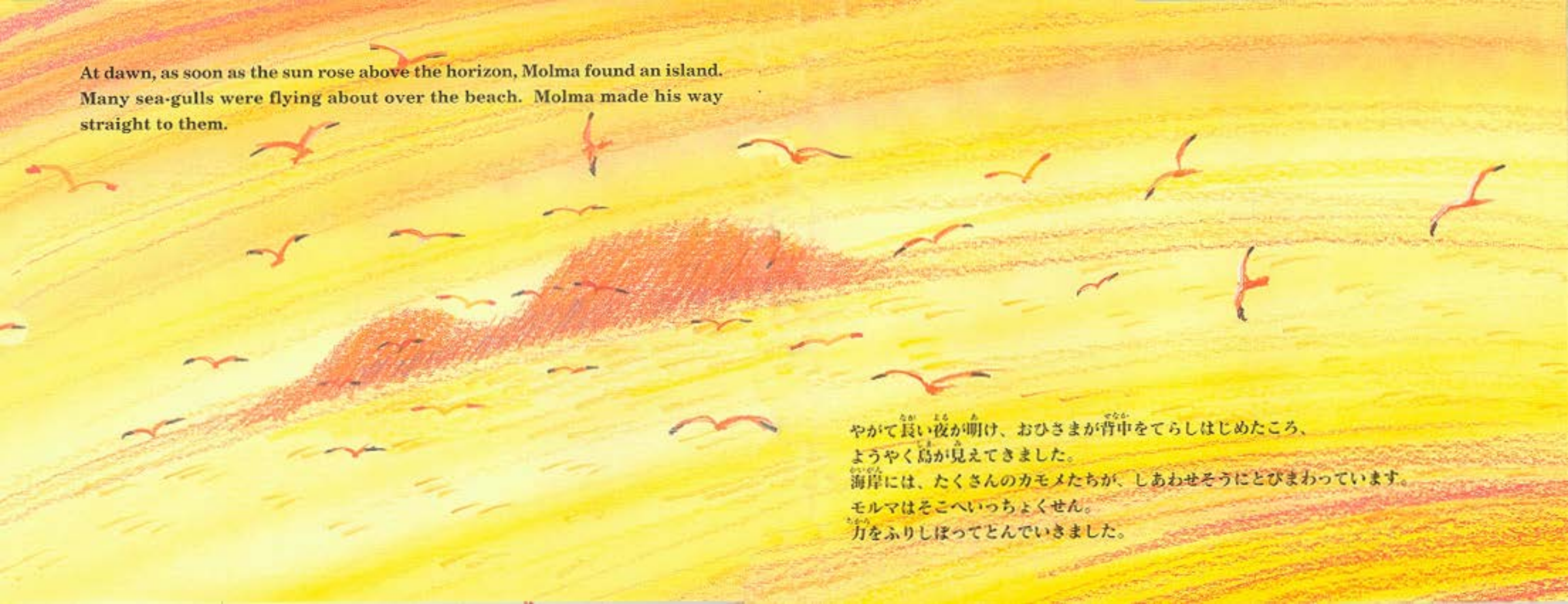
月のない、夜の海の上を、一羽のカモメがとんでいました。
なまえはモルマ。

でも、まだ、だれからも、そのなまえでよばれたことはありません。
だってモルマのすがたは、だれにも見えなかったのです。



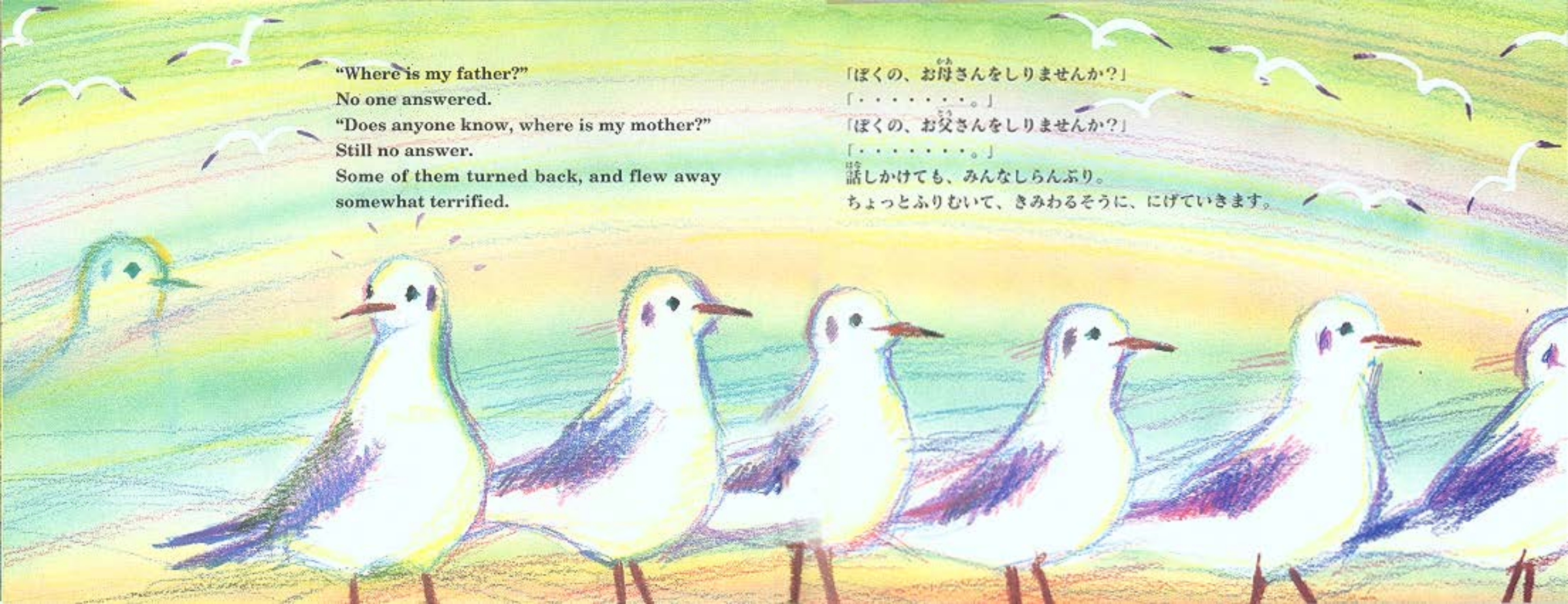
His wings, body, eyes, bill and legs were all transparent.
You must not imagine he was a ghost.
He was just invisible like the wind.

すきとおった羽に、すきとおったからだ。
すきとおったひとみと、すきとおったくちばし。
でも、モルマは、ゆうれいじゃありません。
ただ、風のようにすきとおっているだけ。
だれにも見えないだけなのです。



At dawn, as soon as the sun rose above the horizon, Molma found an island.
Many sea-gulls were flying about over the beach. Molma made his way
straight to them.

やがて長い夜が明け、おひさまが背中をてらしはじめたころ、
ようやく島が見えてきました。
海岸には、たくさんのカモメたちが、しあわせそうにとびまわっています。
モルマはそこへいちよくせん。
力をふりしぼってとんでいきました。



“Where is my father?”

No one answered.

“Does anyone know, where is my mother?”

Still no answer.

Some of them turned back, and flew away somewhat terrified.

「ぼくの、お母^おさんをしりませんか？」

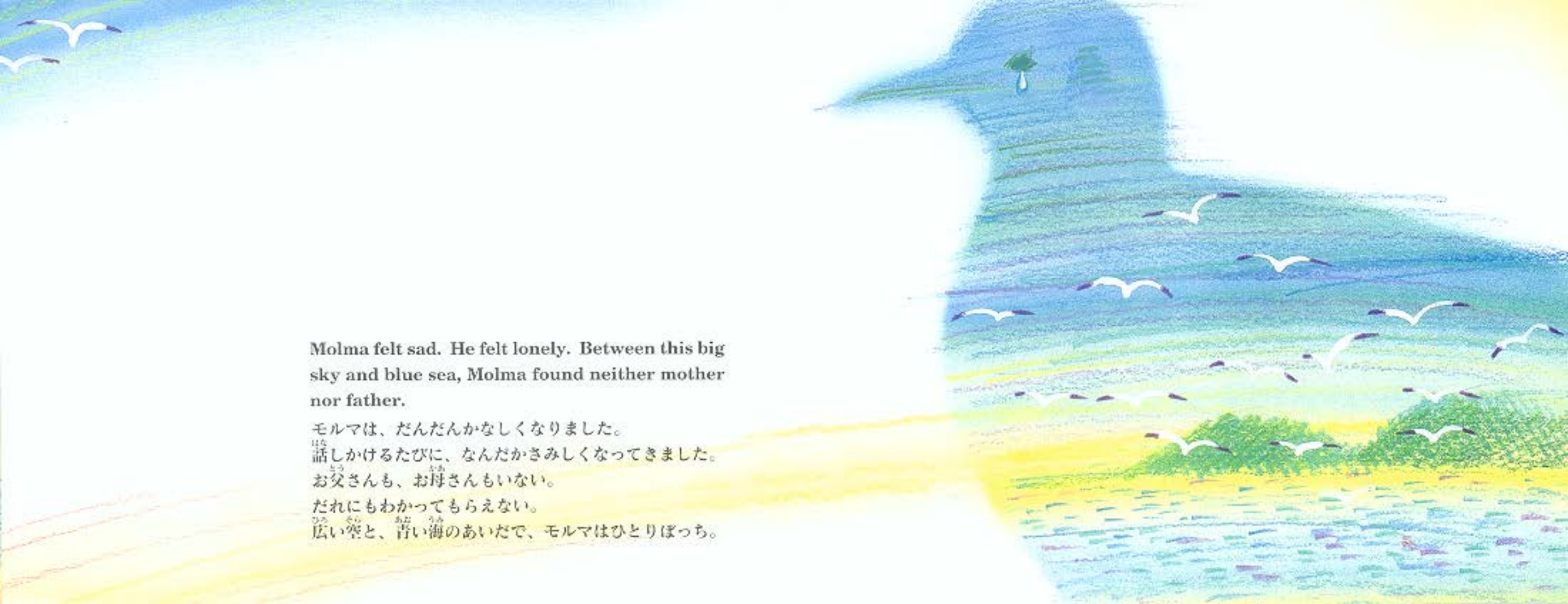
「……………」

「ぼくの、お父^おさんをしりませんか？」

「……………」

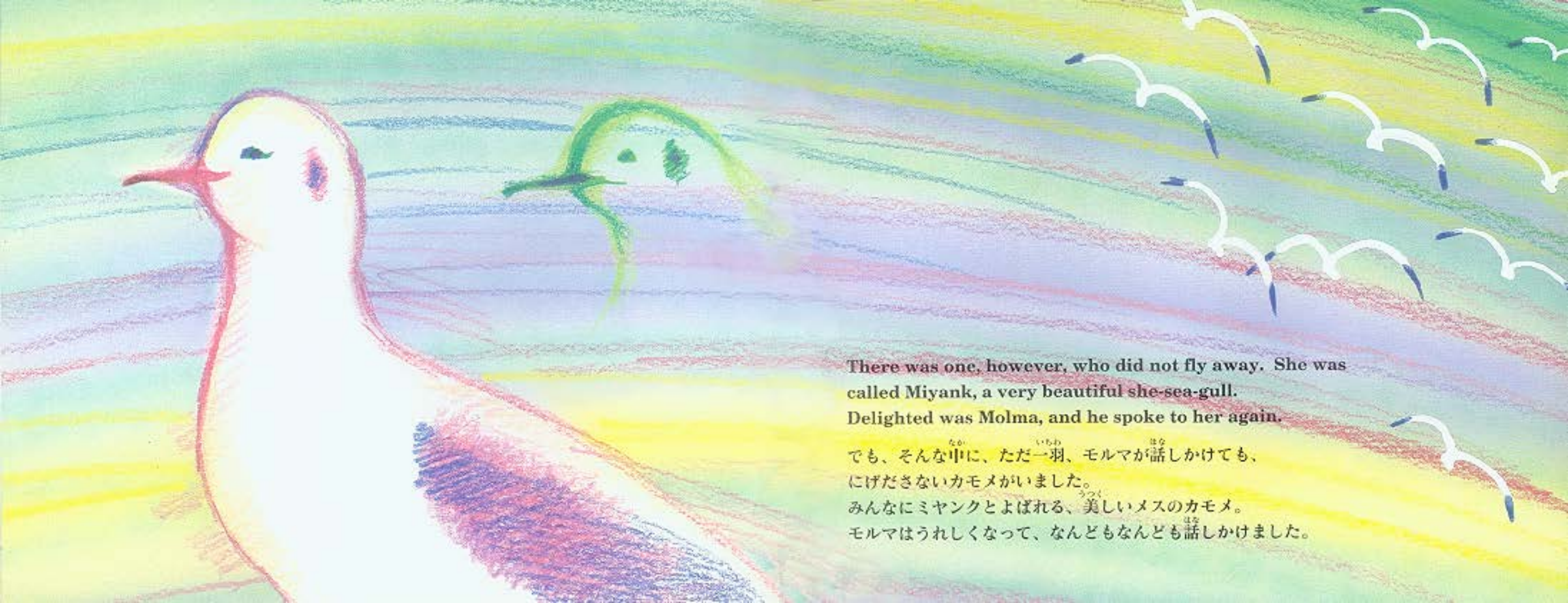
話^{はな}しかけても、みんなしらんぷり。

ちょっとふりむいて、きみわるそうに、にげていきます。




Molma felt sad. He felt lonely. Between this big sky and blue sea, Molma found neither mother nor father.

モルマは、だんだんかなしくなりました。
話しかけるたびに、なんだかさみしくなってきました。
お父さんも、お母さんもいない。
だれにもわかってもらえない。
広い空と、青い海のあいだで、モルマはひとりぼっち。




There was one, however, who did not fly away. She was called Miyank, a very beautiful she-sea-gull. Delighted was Molma, and he spoke to her again.

でも、そんな中に、ただ一羽、モルマが話しかけても、にげださないカモメがいました。みんなにミヤンクとよばれる、美しいメスのカモメ。モルマはうれしくなって、なんどもなんども話しかけました。



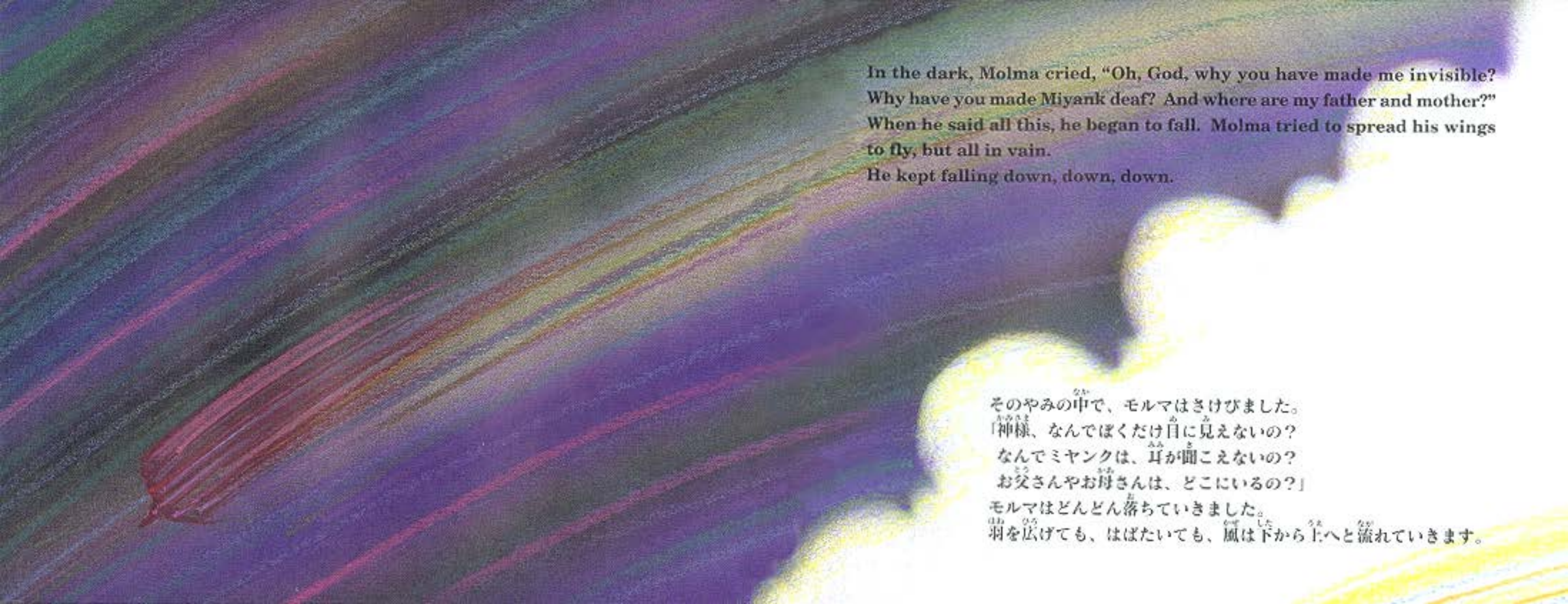
だけどミヤンクは、ふりむきもしません。
まっすぐ前をむいて、せなかをびんとのぼしたまま、モルマなんかしらんぶり。
それもそのはず、ミヤンクは、耳が聞こえなかったのです。
目に見えないカモメと、耳の聞こえないカモメ。
神様は、なんてひどいことをするのだろう。

Miyank, however, did not turn to him, or even notice him.
Why? Oh, because she could not hear.
An invisible sea-gull and a deaf sea-gull!



Molma desperately flew up higher and higher,
intending to complain to God. Above the cloud,
he suddenly found himself in the pitch dark.

モルマは、もう、やけになつてとびました。
高く高く、神様のいるところめざして、どんどん、
ずんずんとんで、雲の上までとんできたとき。
ふっと目の前がまっくらになりました。



In the dark, Molma cried, "Oh, God, why you have made me invisible?
Why have you made Miyank deaf? And where are my father and mother?"
When he said all this, he began to fall. Molma tried to spread his wings
to fly, but all in vain.

He kept falling down, down, down.

そのやみの中で、モルマはさげびました。
「神様、なんでほくだけ目に見えないの？
なんでミヤンクは、耳が聞こえないの？
お父さんやお母さんは、どこにいるの？」

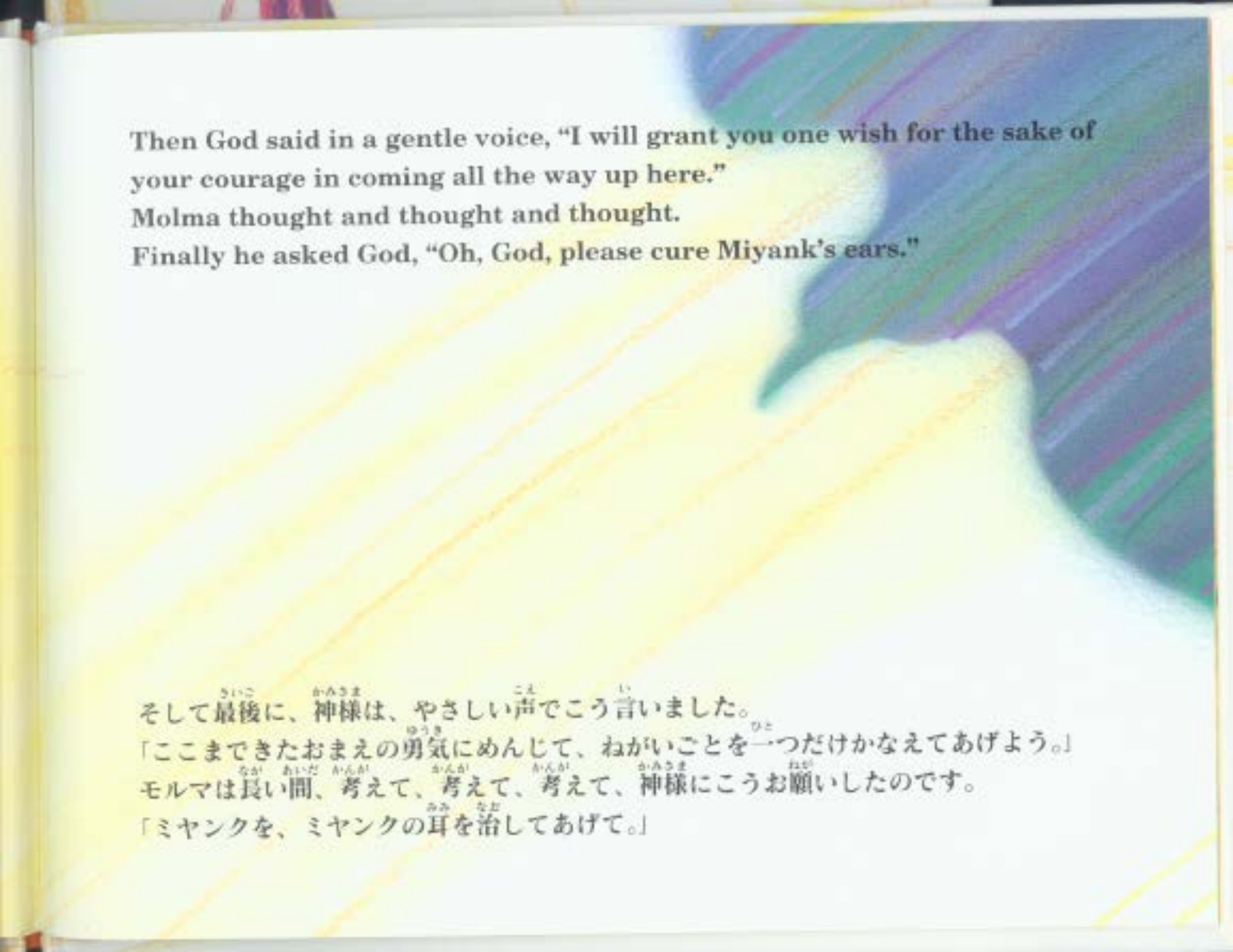
モルマはどんどん落ちていきました。
羽を広げても、はばたいても、風は下から上へと流れていきます。



Molma thought he was going to hit the sea and die, when he heard the voice of God. "I will tell you, Molma, about your parents. In order to save you, their son, they went far far away on a stormy night. That's why you turned transparent as tears because of your great sorrow."

モルマは、海に落ちて死ぬんだと思いました。
そのとき、どこからともなく、神様の声が聞こえてきました。
「モルマよ。おまえの両親は、あらしの夜に、遠くへ行った。
むすこの命をすくうために。
そしておまえは、かなしみのために、
体まで、なみだの色になってしまった。」



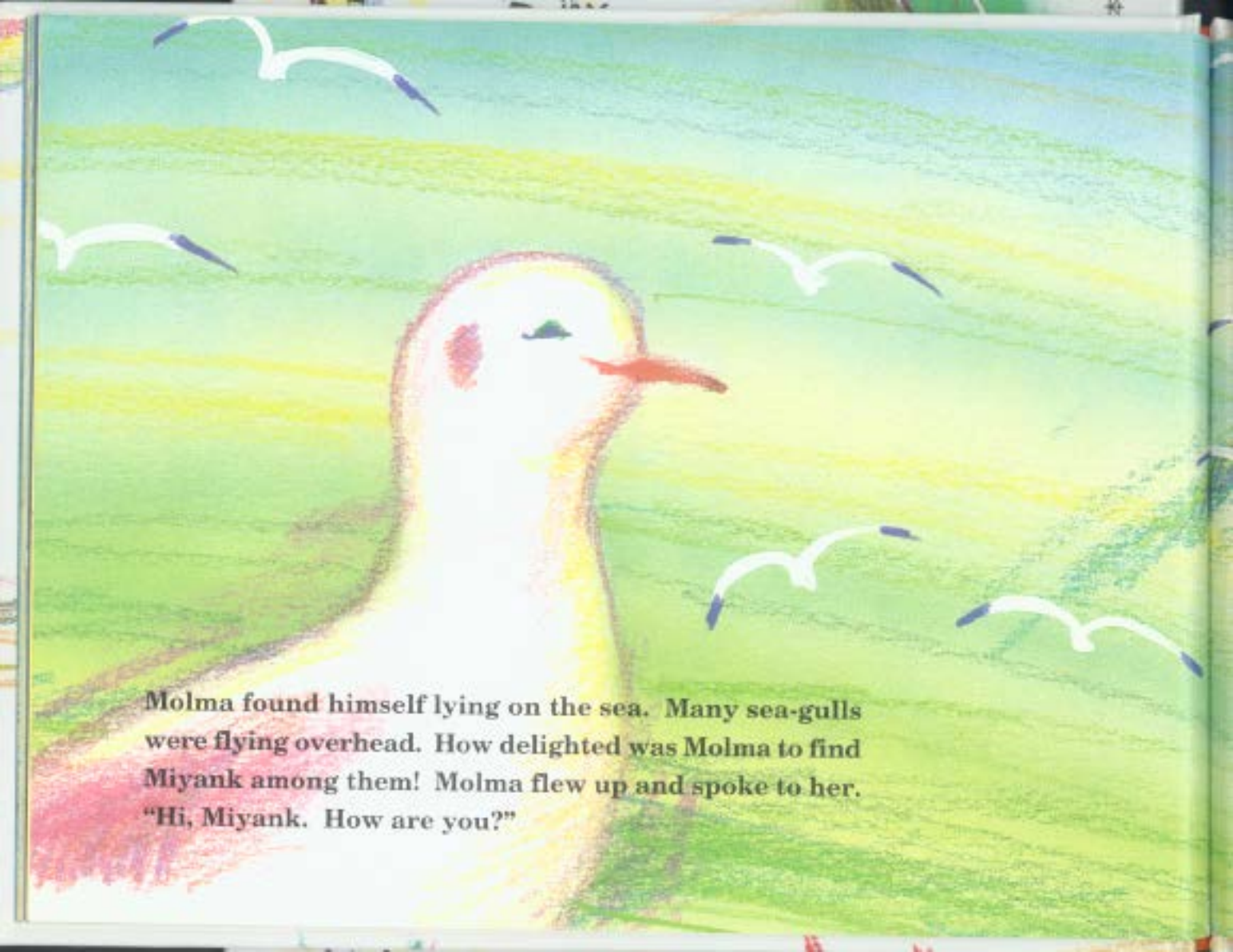


Then God said in a gentle voice, "I will grant you one wish for the sake of your courage in coming all the way up here."

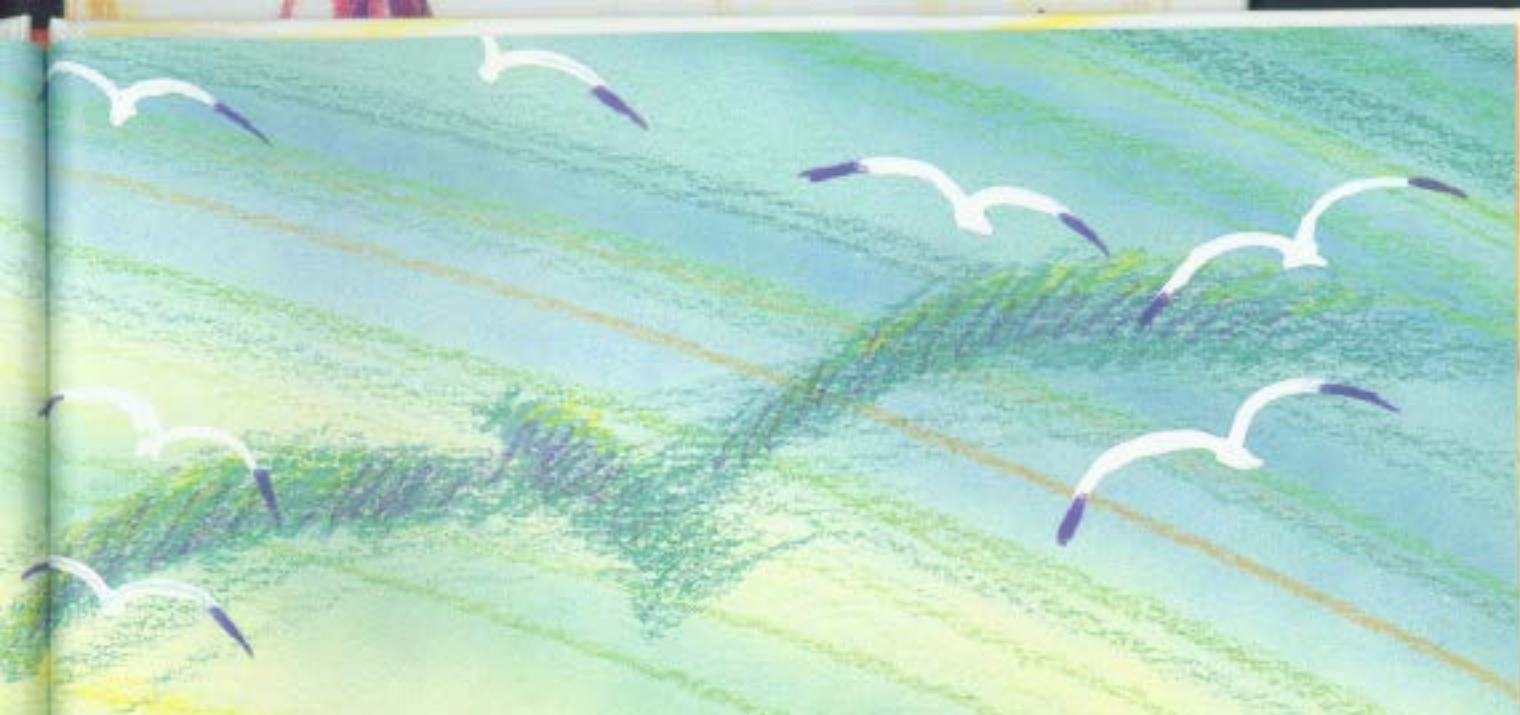
Molma thought and thought and thought.

Finally he asked God, "Oh, God, please cure Miyank's ears."

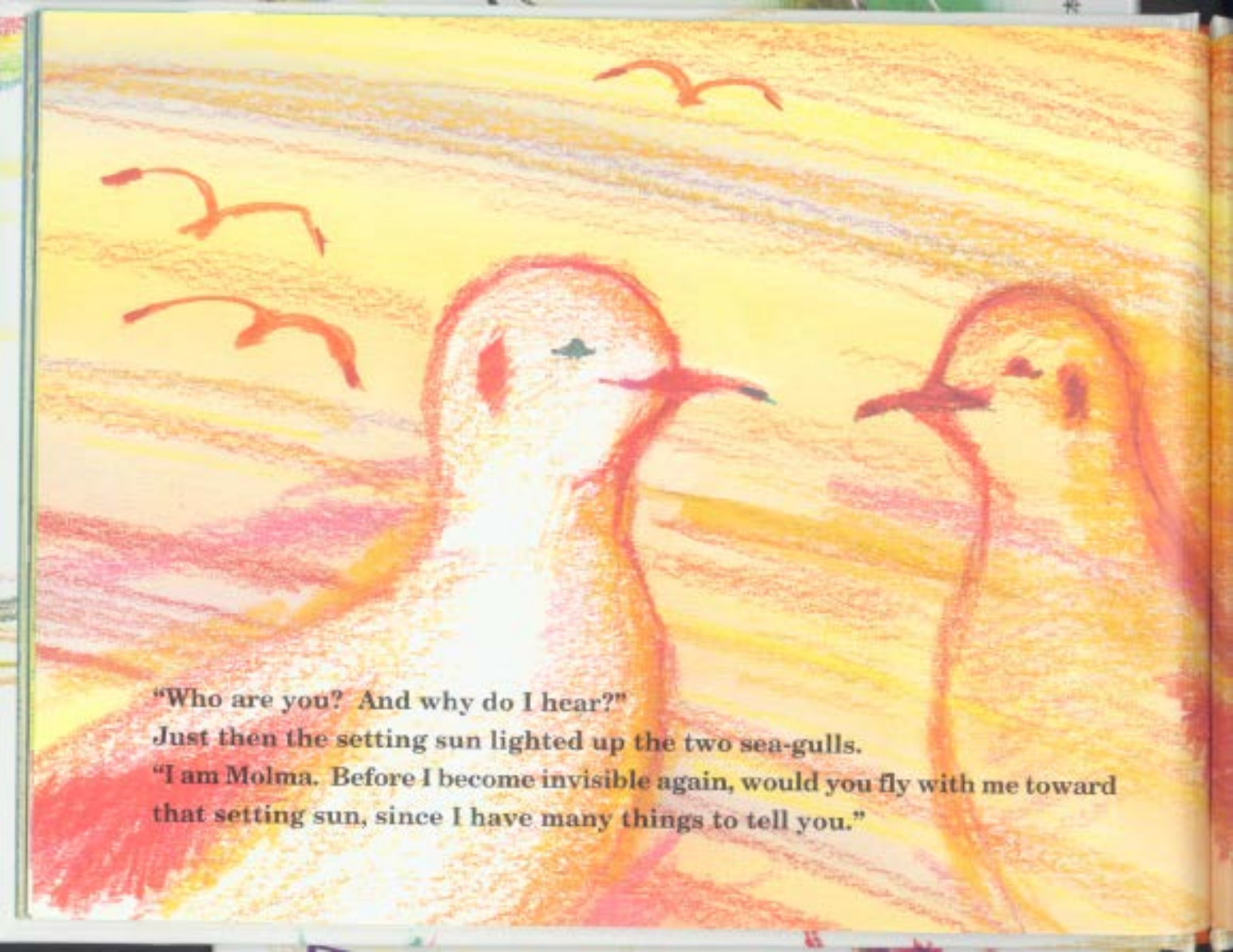
そして最後に、神様は、やさしい声でこう言いました。
「ここまできたおまえの勇氣にめんじて、ねがいごとを一つだけかなえてあげよう。」
モルマは長い間、考えて、考えて、考えて、神様にこうお願いしたのです。
「ミヤンクを、ミヤンクの耳を治してあげて。」



Molma found himself lying on the sea. Many sea-gulls were flying overhead. How delighted was Molma to find Miyank among them! Molma flew up and spoke to her. "Hi, Miyank. How are you?"



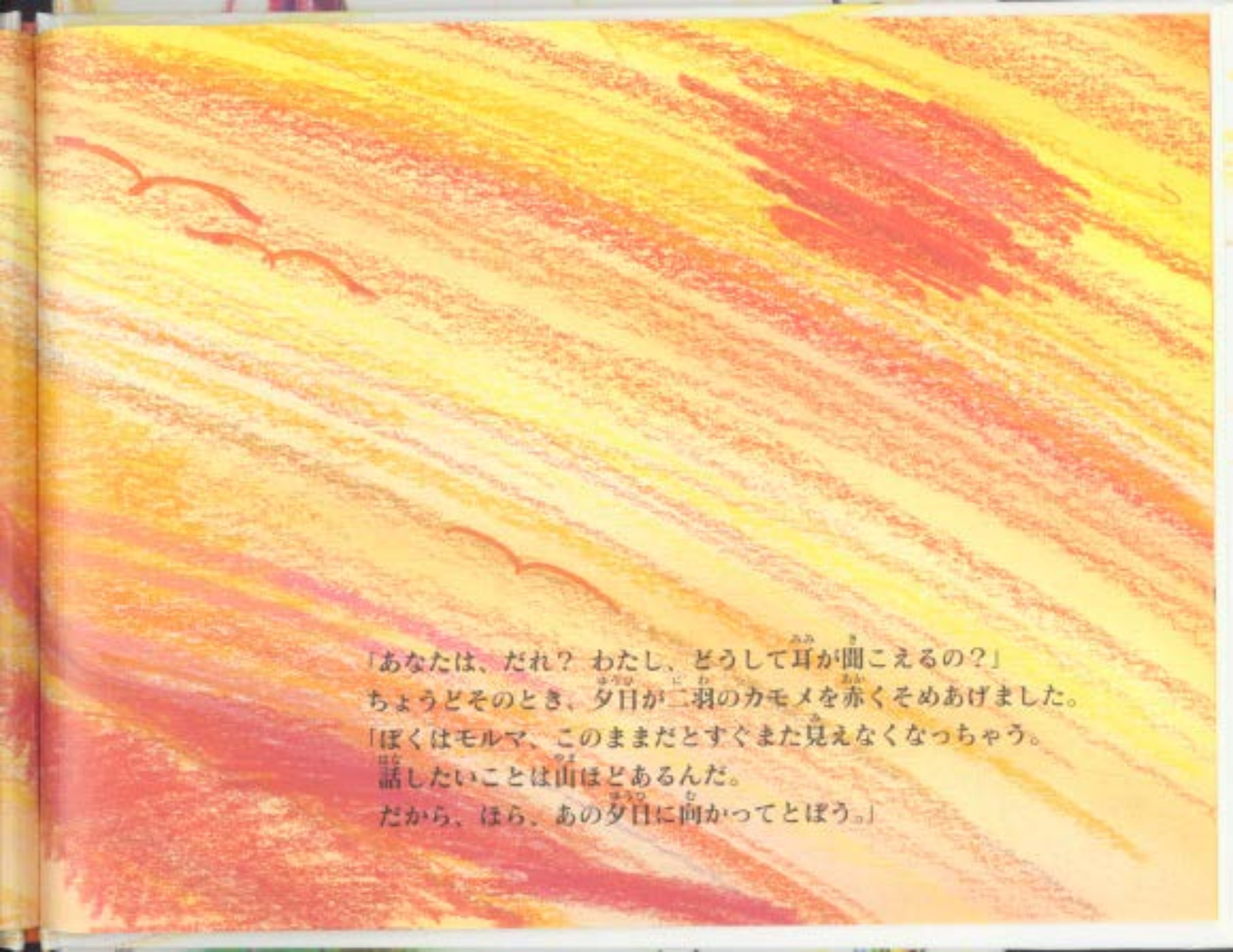
気がつくと、モルマは海の上^{うみの上}にうかんでいました。
頭^{かぶ}の上には、たくさんのカモメたち、もちろんミヤンクもそこにいました。
モルマはさっそく飛び上がり、ミヤンクに話^{はなし}しかけてみました。
「ミヤンク、ごきげんいかが？」
するとミヤンクは、ふりむいてくれました。



"Who are you? And why do I hear?"

Just then the setting sun lighted up the two sea-gulls.

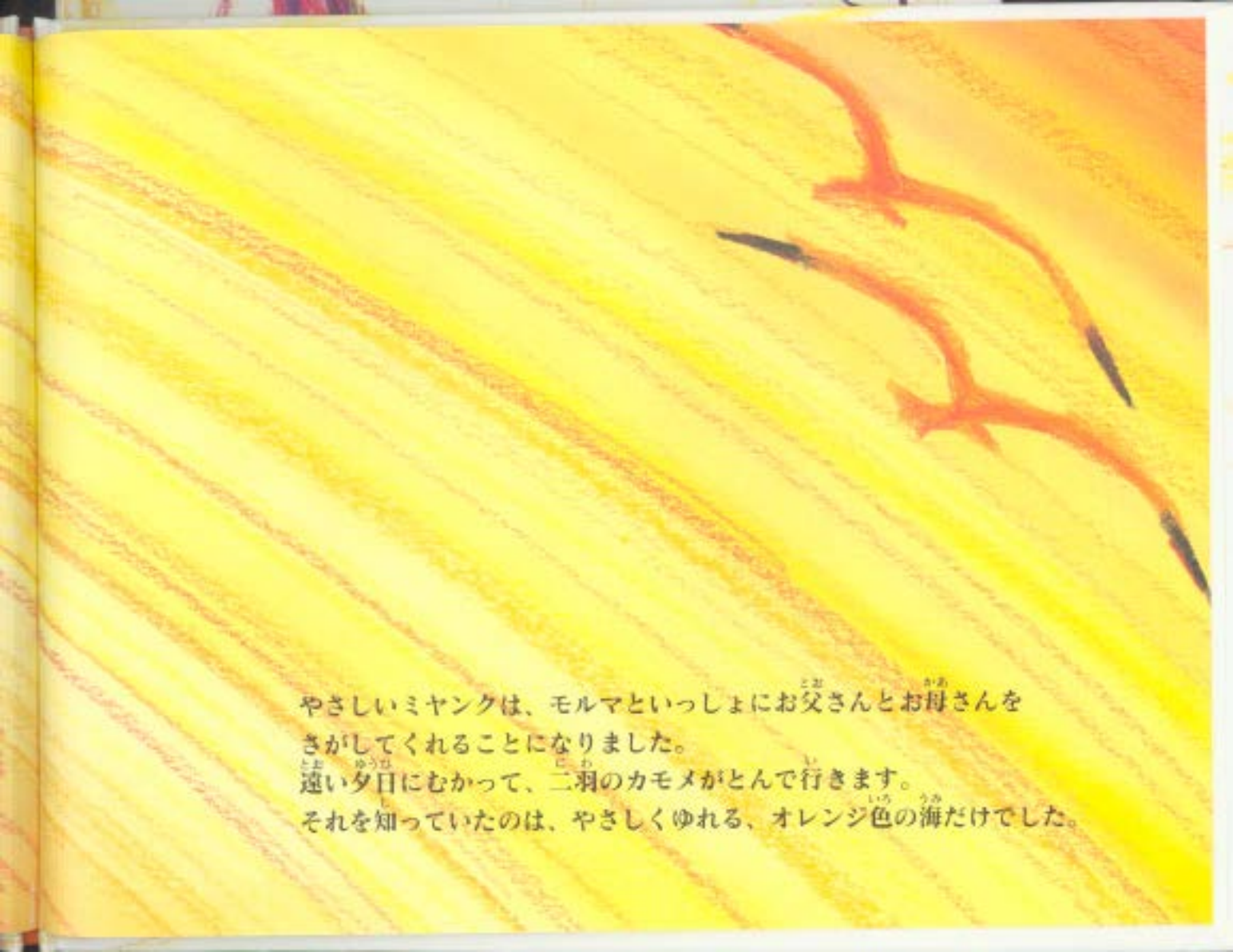
"I am Molma. Before I become invisible again, would you fly with me toward that setting sun, since I have many things to tell you."

A watercolor illustration of a sunset sky. The colors transition from a pale yellow at the top to a deep red and orange at the bottom. There are several birds in flight, depicted with simple, dark outlines. The overall texture is soft and painterly.

「あなたは、だれ？ わたし、どうして耳が聞こえるの？」
ちょうどそのとき、夕日が二羽のカモメを赤くそめあげました。
「ぼくはモルマ、このままだとすぐまた見えなくなっちゃう。
話したいことは山ほどあるんだ。
だから、ほら、あの夕日に向かってとぼう。」

Miyank agreed to help Molma look for his parents.
Only the brightly shining sea was watching the two
sea-gulls flying toward the setting sun.





やさしいミヤンクは、モルマといっしょにお父さんとお母さんを
さがしてくれることになりました。
遠い夕日にむかって、二羽のカモメがとんで行きます。
それを知っていたのは、やさしくゆれる、オレンジ色の海だけでした。







Published by Alku-Planning, Okayama, Japan. Printed by Kohoku Printing Co., Ltd., Okayama, Japan.

入会ご希望の方は、「リコーダーをおくる会」Tel.086(225)7772 へご連絡ください。 定価 900円(本体874円)送料別